

経済・金融 フラッシュ

商業販売統計 10年8月 ～自動車の駆け込み需要を主因に強い動き

経済調査部門 研究員 桑島 滋

TEL:03-3512-1838 E-mail: kuwahata@nli-research.co.jp

1. 自動車の駆け込み需要を主因に強い動き

9月30日に経済産業省から公表された10年8月の商業販売統計速報によると、小売業販売額は前年比4.3%の11兆2320億円と、8ヵ月続けて増加した。季節調整済前月比では1.4%の増加となった。物価変動の影響を除いた実質値(当研究所試算値)では前年比5.0%と、15ヵ月連続の増加となり、増加幅は前月から拡大した。

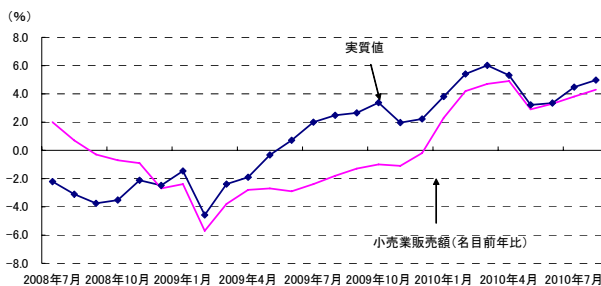
業種別では、前年比▲1.9%と、08年4月以降減少が続いている各種商品小売業を除いて、公表されている7業種中6業種で増加となった。9月のエコカー補助終了直前の駆け込み需要から自動車小売業が前年比18.0%(7月:8.1%)と高い伸びとなったことに加え、猛暑の影響から、エアコンを中心に機械器具小売業が前年比9.5%(7月:同6.5%)と増加幅を拡大させたことなどが消費を押し上げた。寄与度別では、自動車小売業が1.9%、燃料小売業が1.1%、機械器具小売業が0.6%となった。

小売業及びコンビニエンスストア販売額(増減率)

	小売業								コンビニエンスストア販売額	
	前月比		前年比		大型小売店				前年比	前年比(既存店)
					百貨店		スーパー			
	前月比	前年比	前年比	前年比(既存店)	前年比	前年比(既存店)	前年比	前年比(既存店)	前年比	前年比(既存店)
09年6月	▲0.1	▲2.9	▲5.2	▲6.8	▲10.1	▲9.1	▲2.2	▲5.4	0.9	▲1.7
7月	0.4	▲2.4	▲7.0	▲8.4	▲12.8	▲11.8	▲2.9	▲6.0	▲5.1	▲7.5
8月	0.5	▲1.8	▲5.0	▲6.8	▲10.3	▲8.9	▲2.3	▲5.7	▲3.0	▲5.6
9月	0.6	▲1.3	▲4.2	▲5.6	▲9.5	▲7.8	▲1.1	▲4.3	▲2.4	▲5.7
10月	▲0.6	▲1.0	▲6.4	▲7.2	▲12.3	▲10.6	▲2.7	▲5.2	▲2.9	▲5.6
11月	0.0	▲1.1	▲9.0	▲9.7	▲13.5	▲11.8	▲6.1	▲8.3	▲3.6	▲6.4
12月	▲0.3	▲0.2	▲4.2	▲4.6	▲7.0	▲5.1	▲2.3	▲4.3	▲2.8	▲5.7
10年1月	2.0	2.3	▲5.1	▲5.7	▲7.4	▲5.7	▲3.7	▲5.7	▲2.5	▲5.5
2月	0.9	4.2	▲3.4	▲4.0	▲7.4	▲5.3	▲1.2	▲3.3	▲1.8	▲4.9
3月	0.8	4.7	▲4.1	▲4.9	▲5.6	▲3.6	▲3.2	▲5.6	▲2.4	▲5.1
4月	0.5	4.9	▲3.1	▲3.7	▲6.0	▲3.7	▲1.5	▲3.7	▲1.2	▲3.9
5月	▲2.0	2.9	▲3.2	▲3.9	▲4.1	▲2.1	▲2.8	▲4.8	▲0.8	▲3.7
6月	0.4	3.3	▲2.4	▲3.1	▲7.4	▲5.7	0.4	▲1.6	1.2	▲1.4
7月	0.7	3.8	▲1.0	▲1.3	▲3.2	▲1.4	0.5	▲1.2	2.9	0.3
8月	1.4	4.3	▲1.3	▲1.9	▲5.0	▲3.0	0.4	▲1.3	3.2	0.7

(資料)経済産業省「商業販売統計」

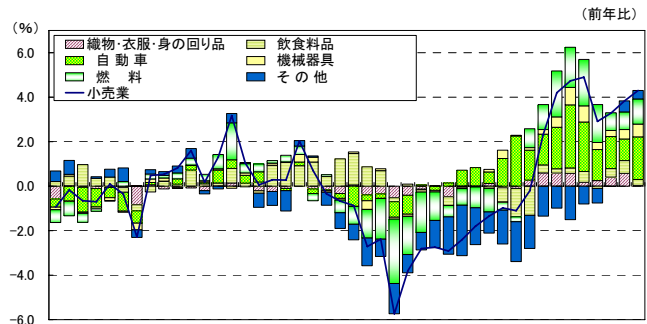
小売販売額の推移



(資料)経済産業省「商業販売統計」

(注)実質値については、消費者物価指数(「財」から「電気・都市ガス・水道」を除いたもの)により実質化
10年8分については、当社予測値にて実質化

小売業販売額(業種別寄与度)



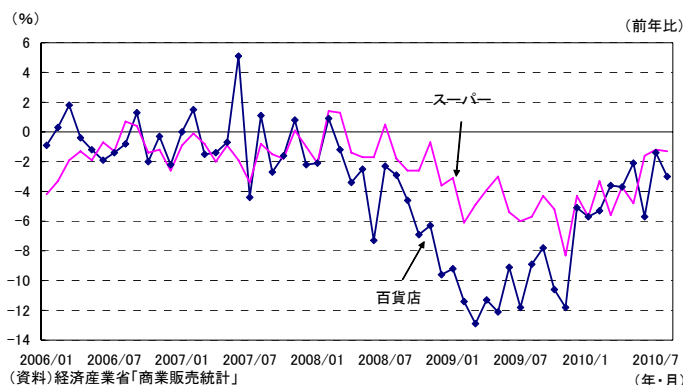
(資料)経済産業省「商業販売統計」

2. 持ち直しの動きが鮮明となったコンビニ

10年8月の大型小売店の販売額（百貨店とスーパーの合計）は1兆5497億円、既存店ベースで前年比▲1.9%となり、29ヵ月連続して前年を下回った。百貨店、スーパーともに持ち直しの動きが続いており、特にスーパーで顕著となっている。

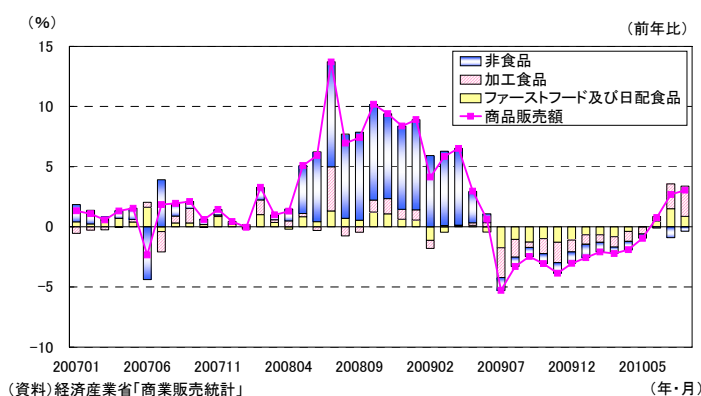
百貨店販売額（既存店）を商品別にみると、紳士服・洋品が前年比▲3.3%、（7月：同▲1.5%）、婦人・子供服・洋品が前年比▲4.8%（7月：同▲3.6%）となるなど、販売額の4割強を占める衣料品全体で減少幅が拡大（7月：前年比▲3.2%⇒8月：同▲4.6%）した。その他の商品では、飲食料品が減少に転じた（7月：前年比1.7%⇒8月：同▲2.2%）ものの、家庭用品は前年比2.8%と、7月（同3.6%）に続いて増加した。

百貨店及びスーパー販売額推移(既存店ベース)



コンビニエンスストア販売額（商品販売額及びサービス売上高）は7427億円、前年比3.2%（全店ベース）と3ヵ月続けて増加した。猛暑の影響により、アイスクリーム、清涼飲料の販売が好調なことから加工食品（前年比8.1%、7月：同6.7%）で大幅増加が続いたことが販売額の増加に大きく寄与している。その他の商品は、非食品（前年比▲1.1%、7月：同▲2.7%）で減少幅が縮小した一方、ファーストフード及び日配食品（前年比2.4%、7月：同4.2%）では増加幅が縮小した。

コンビニエンスストア商品販売額(全店ベース 寄与度)



最近の個人消費は、猛暑の影響によるエアコンの増加、エコカー補助金終了直前の自動車の駆け込み需要から強い動きとなっている。10月からの値上げに伴い、9月末にかけても、たばこの駆け込み需要が予想されることから、7-9月期の個人消費は大きく増加するものと思われる。ただし、先行きについては、賃金の増加など所得環境の改善が下支え要因となるものの、駆け込み需要の反動減による影響が大きく、非常に弱い動きとなることが懸念される。